

令和8年度第1回碧南市地域包括支援センター運営協議会 及び
碧南市認知症初期集中支援チーム検討委員会 及び
碧南市高齢者虐待防止連絡協議会 議事録

1 日時

令和8年6月19日（金）午後1時30分から2時45分まで

2 場所

碧南市役所 2階 会議室1

3 出席者

（1）出席者（10名）委員全員出席

榊原和弘、山中謙治、遠藤希和子、長田和久、杉浦龍一、亀田陽子、深津茂樹、
中島信博、榊原勝博、磯貝靖子

（2）事務局職員

事務局

福祉部長 鈴木美奈子、高齢介護課長 三島瑞希、地域支援係長 榊原陵子、
地域支援係主査 鈴木直子、地域支援係主事 齊木鉄馬

認知症初期集中支援チーム

地域支援係主査 鈴木直子

高齢者虐待防止連絡協議会

地域支援係主事 齊木鉄馬

碧南社協地域包括支援センター

主任介護支援専門員 杉浦糸子

碧南東部地域包括支援センター

主任介護支援専門員 高橋洋介

碧南南部地域包括支援センター

主任介護支援専門員 中根千勢子

4 傍聴者

1人

5 会議成立確認

全員（10名）出席により成立

6 議題

『令和8年度第1回地域包括支援センター運営協議会』

- (1) 令和7年度地域包括支援センター運営状況について【資料1】P.1～
- (2) 令和7年度地域包括支援センター決算状況について【資料2】P.15～
- (3) 令和8年度事業計画及び重点取組スケジュール及び令和8年度予算書について
【資料3、4、5】P.18～

『令和8年度認知症初期集中支援チーム検討委員会』

- (1) 令和7年度認知症初期集中支援チーム活動について【資料6、7】P.47～

『令和8年度高齢者虐待防止連絡協議会』

- (1) 令和7年度高齢者虐待対応について【資料8、9】P.52～

7 議事の要旨

(1) 会長あいさつ

本日は3つの会議がある。地域包括支援センターの運営についても、認知症と高齢者虐待についても難しい議題ではあるが、ご審議のほどよろしくをお願いしたい。

(2) 議題

『令和8年度第1回地域包括支援センター運営協議会』

ア 令和7年度地域包括支援センター運営状況について

事務局（地域支援係）から資料1により説明

イ 令和7年度地域包括支援センター決算状況について

碧南社協地域包括支援センター、碧南東部地域包括支援センター、碧南南部地域包括支援センターから資料2により説明

○A委員）9ページ権利擁護業務の相談件数について。イその他の相談件数で特に東部包括が令和5年度と6年度でかなり件数が増えている。数の増減について何か原因があるのか。

○事務局）こちらの件数については、あくまで述べ件数となっているもので、1件の相談に対し複数回対応が必要なケースが多くなっていることも要因の一つと考えている。

ウ 令和 8 年度事業計画及び重点取組スケジュール及び令和 8 年度予算書について
碧南社協地域包括支援センター、碧南東部地域包括支援センター、碧南南部地域
包括支援センターから資料 3、4、5 により説明

○B 委員) 高齢化により認知症の人が増えている。中高生向け認知症サポーター講座開催について、8 月なので夏休みで暇だというところで参加する子どもたちもいるとは思いますが、もっと積極的に学校の方に出向いて生徒全員に講義をするといったことをしてみるのはいかがでしょうか。自分たちもいずれは老いる。「老いても大丈夫」ということを知っていれば、子どもたちも自分の未来に安心が持てるし、先行く人には寄り添う、といった子どもたちのマインドを育てていけたら良いと思う。

○事務局) 現在、大浜小学校が定期的に 2、3 年生を対象に認知症サポーター講座を受講してくれている。受講後のアンケートには「おじいちゃん。おばあちゃんに優しくしたい」「認知症だけでなく困っている人がいたら助けたい」といった言葉がたくさんあり、そういった心が育っていると感じる。他にも不定期で受講してくれる学校や児童クラブもある。学校の児童全体に講義をするということは難しいが、だんだんと広めていけるように努力していきたい。

○A 委員) 学校教育課や学校の教育委員会とは話をしているか。

○事務局) 何度かお話をしたことはあるが、やはり学校の行事自体がいっぱい、認知症サポーター講座を年間行事として組み込む余裕がないとのことだった。

『令和 8 年度認知症初期集中支援チーム検討委員会』

ア 令和 7 年度認知症初期集中支援チーム活動について

事務局（地域支援係）から資料 6、7 により説明

○C 委員) 令和 7 年度実績は対応 6 ケース中、終了ケースが 4 件ということだが、対象者はどのようなケースがあるか知りたい。

○事務局) 対応件数が少ない理由としては、認知症の初期の段階では困ることが少ないので積極的にチームに相談される方が少ないこと、認知症伴走型支援事業も始まり相談窓口が増えていること、地域包括支援センターの認知症対応力が向上しているため、チームまで相談が上がってこないことなどが要因と考えている。ここ最近の傾向としては、単純な認知症というよりも、妄想や攻撃性といった精

神科領域の症状を併せ持ったケースが多い。チーム員の中には精神保健福祉士の資格をもった者もいるので専門性を活かしながら、例えば自宅で暮らせる状態になるまで一旦精神病院の入院につながるといったサポートを行っている。

『令和 8 年度高齢者虐待防止連絡協議会』

ア 令和7年度高齢者虐待対応について

事務局（地域支援係）から資料 8、9 により説明

○A 委員）54 ページの（3）虐待の種類について、誰が判断するのか。

○事務局）コアメンバー会議という会議の場で、高齢介護課係長、担当職員、地域包括支援センターなどが事実確認を踏まえ判断している。

○A 委員）令和 7 年度に経済的虐待が 1 件あるがどういうケースか。

○事務局）本人のお金を使って本人のやりたいことができない、例えばご飯を食べられない、本人が使える金額を制限してデイサービスを使わせないといったことだった。

○A 委員）本人のおろした年金で、例えば本人と家族の分の食事を買うというのは虐待にあたらないのか。

○そのあたりの経済的虐待の判断は難しい。本人と家族と一緒に暮らしているとなると、本人の年金がどれだけ本人に使われているかということを数的に示せないことが理由。

(3) その他

事務局）次回の開催については、令和 9 年 2 月 5 日（金）午後 1 時 30 分から、市役所 2 階 談話室 1・2 での開催を予定しているので、予定をお願いしたい。次回については第 2 回碧南市地域包括支援センター運営協議会のみの開催となる。また、今回の委員報酬につきましては、市に届出の口座に振り込みをさせていただく。よろしくをお願いしたい。